

## 気になる拙著『災後の新聞』

件名の拙著が書店に並び始めて2週間余り経つ。小さいながらも、久しぶりの単著であり、書店での「反応」が気になる。

先週土曜に名駅近くの大型書店を訪ねた。本が探しやすい「定点観測」している書店である。じつは拙著が並んでいるかを確認めに行った。「情報」を検索すると、5冊が昨日現在「マスコミ関係」コーナーに並んでいると出た。コーナーに行き行って細かい目を開いて探したが、見つからない。店員さんに聞こうと思ったが、5冊がすぐに売れたことにして、そのまま帰宅した。私にしては楽観的だ。

昔のことになるが、最初の単著『公共事業と財政』を刊行した時のこと。東京に行ったときに、確か八重洲ブックセンターに行って、拙著が書棚に並んでいたのを「感動」したことがある。付

近を見回して、こっそりと書棚を写真に撮った。たまにしか本を出さないから、こんな「感動」を味わえる。

写真は8月19日の「中日新聞」朝刊1面下段の風媒社の広告欄である。iPadで撮ったのを張り付けたので鮮明ではないが、真ん中あたりに『災後の新聞』



が紹介されている。「災後」だからか、すこし黒く表示されている。

いつ広告が掲載されるかと心待ちにしていたが、やっと出たという感じだ。風媒社としては、奮発したのか?大きめの広告だ。広告のなかで目立つのが、西條八束著『父・西條八十の横顔』である。2011年7月刊行で「重版出来」となっている。著者の西條八束先生が亡くなられて数年経つが、先生にはお世話になった。中部の環境を考える会『環境と創造』25号、2007年12月に「西條八束先生を偲ぶ」を書かせてもらった。このレポート集にも収録してある。

中部国際空港の開発をめぐる、私が朝日新聞「声」欄に投書したことがある。西條先生から「共感と励まし」のお手紙をもらったことが忘れられない。今こうして、西條先生のご著書と拙著が広告に並んだことが感慨深い。

(2014年8月21日)